

(鯖街道熊川宿 案内地図：熊川宿【設置場所：中の町駐車場、まがり、道の駅ポケットパーク】)

## 熊川宿という宿場

熊川宿は、若狭地域と京都の首都を結ぶ主要な交易路である若狭街道に沿った物資の輸送を促進した、繁栄した宿場町でした。1589年、政府の勅令により町は多くの税金を免除され、運送代理店、運搬人の事業所、商店、宿泊施設などの商業の発展が促進されました。熊川宿は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、その歴史的な雰囲気は、1750年～1867年の賑やかな宿場町での日常生活を垣間見ることができます。町は上ノ町、中ノ町、下ノ町の3つのエリアに分かれています。

## 注目の場所

### 1. 熊川番所

番所に配属された役人は、熊川宿に出入りする道路を監視し、旅行許可を検査し、輸送された商品に税を課しました。ここは元々の外観に復元され、内部には工作中的の検査官を示すシーンが再現されており、その背後には様々な武器が展示されています。番所は若狭町から有形文化財に指定されています。

### 2. 旧逸見勘兵衛家

この建物は、熊川の初代の長であった逸見勘兵衛（1842年～1909年）がかつて所有していたものです。宿場町の裕福な住民に好まれた町屋という様式の代表となっています。この施設は、伝統的な建物を将来の世代のためにどのように保存できるかの一例とするために、大規模な修復が行われました。現在は、宿泊施設、カフェ、土産物店が入っています。

### 3. 熊川宿資料館（宿場館）

この建物は元々1940年に建てられ、熊川村役場として使われていました。1997年には、熊川宿の歴史と文化、そして若狭と京都を結ぶ交易路である鯖街道（鯖の道）の道路網を専門とする資料館になりました。展示品には、保存資料、写真、パネル展示、昔の宿場町の日常生活や商業活動に関連するさまざまな品物が含まれます。

### 4. 荻野家の伝統的な住宅

荻野家は何世代にもわたって、物資の輸送を専門とする倉見屋と呼ばれる繁栄した事業を営んでいました。建物の主屋は1811年頃に建てられており、熊川に残っている最も古い伝統的な町家です。その他の注目すべき建築上の特徴には、隣接する荷物用の蔵と従業員用の屋根裏の寝室が

あります。この邸宅は国の重要文化財に指定されています。

## 5. 村田館

この建物は元々、1912年に京都で創業したミシュラン 3 つ星付きの料亭である菊乃井<sup>きくのい</sup>の創設者の村田<sup>とらきち</sup>寅吉の家でした。菊乃井の 3 代目オーナーである寅吉の孫の支援を受け、この旧邸宅は改装され、鯖街道という交易路に沿って栄えた若狭の食文化に特化した施設になりました。

## 6. 与七<sup>よしち</sup>休憩所

この建物は、展示会や体験型授業、講演会、その他のイベントの開催にも使われている休憩施設として機能しています。熊川宿で親孝行の鑑とされる与七という男にちなんで名付けられました。与七はかつて妻と一緒にこの地域に住んでおり、とても貧しかったにもかかわらず、年老いた両親に食べ物を提供することを欠かしませんでした。ついには、この夫婦の尊敬と献身に対して、小浜藩の藩主から豪華な褒美が与えられました。